

教員の採用・研修の在り方 ～ 特別支援教育の視点から～

全国特別支援学校長会副会長

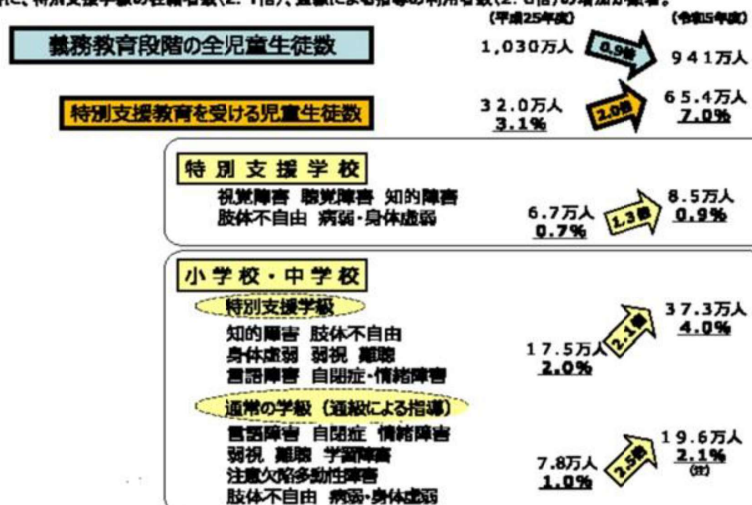
東京都立文京盲学校
校長 安田 咲登子

特別な支援を必要とする児童生徒の現状

- 義務教育段階の児童生徒数が減少する中で特別支援教育を受ける児童生徒は10年で**約2倍**
- 特に特別支援学級
2.1倍
通級による指導は
2.5倍

特別支援学校等の児童生徒の増加の状況(H25→R5)

- 直近10年間で義務教育段階の児童生徒数は1割減少する一方で、特別支援教育を受ける児童生徒数は倍増。
- 特に、特別支援学級の在籍者数(2.1倍)、通級による指導の利用者数(2.3倍)の増加が顕著。



出典: 文部科学省

通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の現状

- 通常の学級（小中）の学級担任等の回答で「学習面又は行動面で著しい困難を示す」割合 **8.8%**

すべての教師が合理的配慮など、特別支援教育に関する基本的な考え方を理解する必要性

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について

<調査概要>

調査目的	本調査により、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態と支援の状況を明らかにし、今後の施策の在り方等の検討の基礎資料とすることを目的。
調査対象地域・学校等	全国の公立の小学校・中学校・高等学校の通常の学級に在籍する児童生徒 ※高等学校は全日制又は定時制に在籍する1～3年生を対象 ・学校を市町村規模と学校規模で抽出し、小学校・中学校・高等学校それぞれ600校を抽出 ・抽出された学校の各学年において、1学級を無作為抽出 ・抽出された学級において、原則、小学校・中学校においては10名（男女それぞれ5名ずつ）、高等学校は20名（男女それぞれ10名ずつ）を無作為抽出
回収数及び回収率	対象児童生徒数88,516人（小学校：35,963人、中学校：17,988人、高等学校：34,565人）のうち、74,919人回収（回収率 84.6%）
調査回答者等	調査対象の学級担任等が記入し、特別支援教育コーディネーター又は教頭（副校長）のいずれかによる確認の後、校長の了解の下で回答。（学級担任等が判断に迷う場合には校内委員会や教務主任・教科担任などに相談可能）
質問項目	Ⅰ. 児童生徒の困難の状況 学習面（「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」） 行動面（「不注意」「多動性・衝動性」「対人関係やこだわり等」） Ⅱ. 児童生徒の受けている支援の状況

令和4年	小学校・中学校	高等学校	（参考）過去の調査結果 ^{※1}	H24	H14
学習面又は行動面で著しい困難を示す	8.8%	2.2%	学習面又は行動面で著しい困難を示す	6.5%	6.3%
学習面で著しい困難を示す	6.5%	1.3%	学習面で著しい困難を示す	4.5%	4.5%
「聞く」又は「話す」に著しい困難を示す	2.5%	0.5%	「聞く」又は「話す」に著しい困難を示す	1.7%	1.1%
「読む」又は「書く」に著しい困難を示す	3.5%	0.6%	「読む」又は「書く」に著しい困難を示す	2.4%	2.5%
「計算する」又は「推論する」に著しい困難を示す	3.4%	0.6%	「計算する」又は「推論する」に著しい困難を示す	2.3%	2.8%
行動面で著しい困難を示す	4.7%	1.4%	行動面で著しい困難を示す	3.6%	2.9%
「不注意」又は「多動性・衝動性」の問題を著しく示す	4.0%	1.0%	「不注意」又は「多動性・衝動性」の問題を著しく示す	3.1%	2.5%
「不注意」の問題を著しく示す	3.6%	0.9%	「不注意」の問題を著しく示す	2.7%	1.1%
「多動性・衝動性」の問題を著しく示す	1.6%	0.2%	「多動性・衝動性」の問題を著しく示す	1.4%	2.3%
「対人関係やこだわり等」の問題を著しく示す	1.7%	0.5%	「対人関係やこだわり等」の問題を著しく示す	1.1%	0.8%
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	2.3%	0.5%	学習面と行動面ともに著しい困難を示す	1.6%	1.2%

※ 本調査は、学級担任等による回答に基づくもので、発達障害の専門家チームによる診断や医師による診断によるものではない。従って、本調査の結果は、発達障害のある児童生徒数の割合を示すものではなく、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合を示すことに留意する必要がある。

※1 高等学校については令和4年のみ調査。 ※2 平成14年調査及び平成24年調査は、小学校・中学校のデータ。

出典：文部科学省

出典：文部科学省

特別支援教育に関わる教師の専門性の現状

- 特別支援教育を必要とする児童生徒数が増えている一方で、小学校で70.6%、中学校で75.4%の校長が、特別支援教育に携わった経験が無い。全国の小中高校の教員のうち、採用後10年までに特別支援教育に関する**経験がない教員が全体の80%**に上る。
- 小学校等の特別支援学級の臨時的任用教員の割合は、学級担任全体における**臨時的任用教員の割合の倍以上**。
- 特別支援学級担当教員（小・中）で基礎免許に加え、特別支援学校教員**免許を保有している割合は31.0%**。
- 特別支援学校においても特別支援学校教員免許の保有は**87.2%**に留まる

計画的に育成が進んでいるとは言い難い現状

特別支援学校の教員の免許状の保有率の向上に向けて



(特別支援学校における在籍校種の免許状保有率の経年比較)

○ 免許状保有率: 87.2% (令和5年度) ⇒ **本来保有すべきもの**
※教育職員免許法附則第15項(「当分の間」保有を要しないとする経過措置規定)

参考資料

- ・特別支援学校全体の免許状保有率は上昇傾向
- ・通知により、免許状取得に向けた年次計画の策定等を指示



※平成18年度の全体及び新規採用者の数値は、在籍校種の免許状保有者の割合を示す。
平成19年度以降は、いずれの数値も「当該障害種の免許状保有者」と「自立教科等の免許状保有者(当該障害種)」を合わせた割合を示す。

※特別支援学級(小・中学校)担当教員で、小・中学校教諭免許状に加え、特別支援学校教諭免許状を保有している割合: **31.0%**

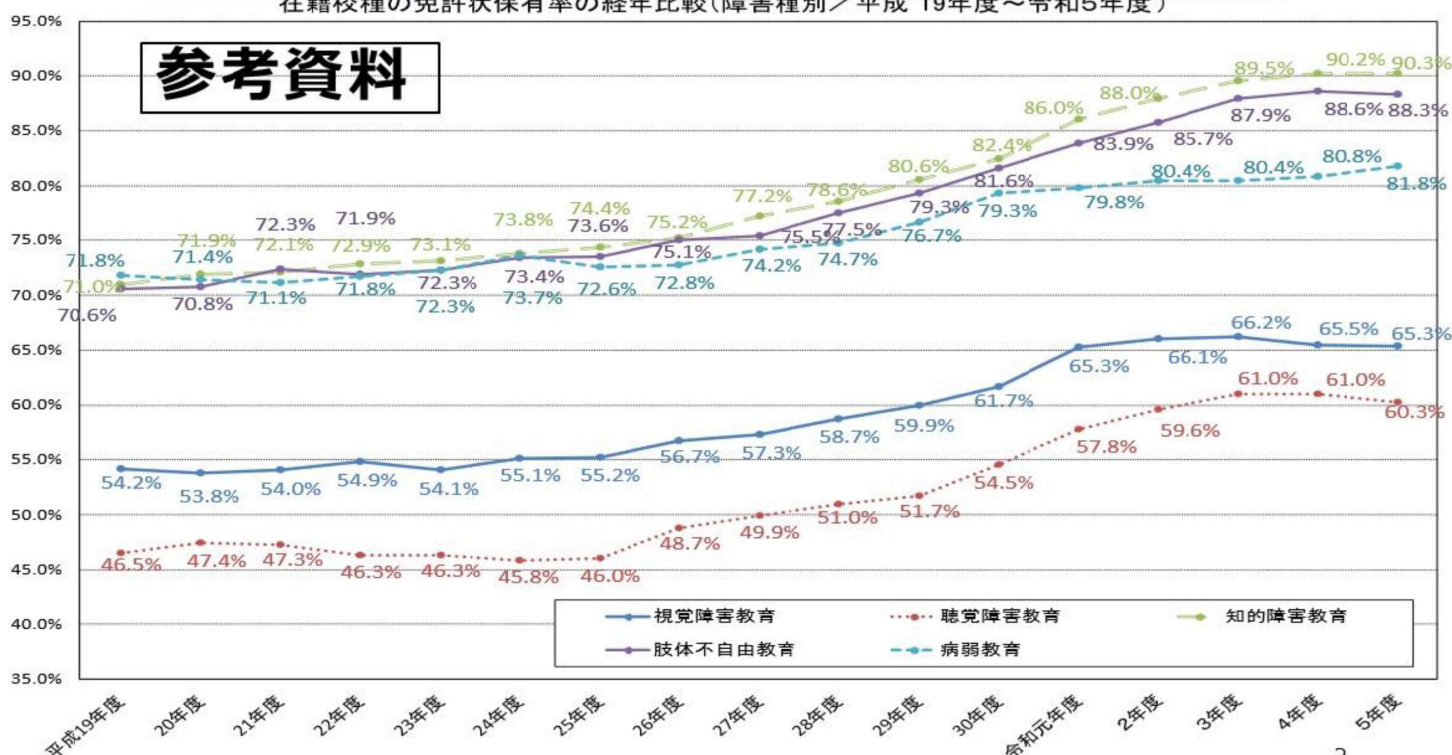
5

在籍校種の特別支援学校教諭等免許状の保有率の推移 (障害種別)



在籍校種の免許状保有率の経年比較(障害種別/平成19年度～令和5年度)

参考資料



2

特別支援教育に関わる教師の専門性向上に向けて（例）

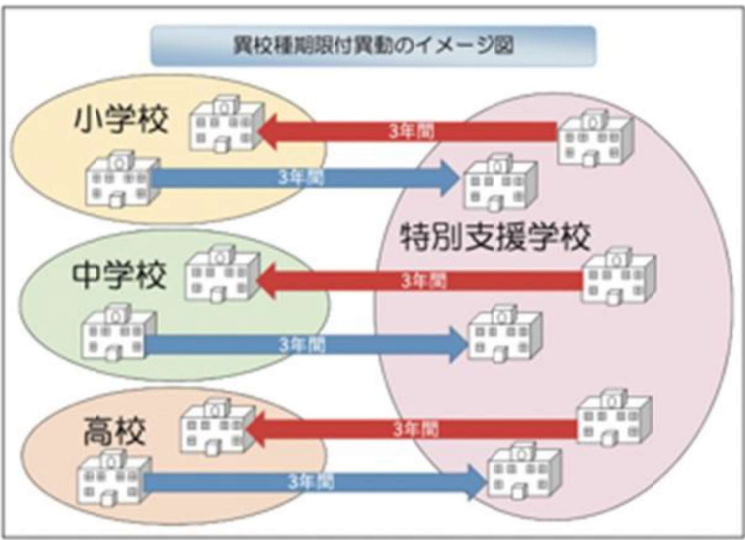
<特別支援学校として>

- 集団指導や教科指導の経験を通じて、特別な支援を必要とする児童・生徒の困難さへの理解が促進
- 特別支援学校に戻った後センター的機能の充実に寄与する人材として育成

<小中高校として>

- 特別支援学校の教員が、異動先に在籍する教員の特別支援教育への理解を促進し、指導力向上の役割を担う。
- 小・中・高校の教員が、特別支援学校へ期限付きで異動し、障害の特性に応じたきめ細かい指導を経験することで、小・中・高校に戻った後は、地域の特別支援教育を推進する役割を担う人材となるよう育成

人事交流制度 （異校種期限付き異動）



出典：東京都教育委員会

7

特別な支援を必要とする児童生徒の理解・専門性の向上は喫緊の学校課題（いじめ・不登校等）の改善の糸口となるのではないか

- ・ 急速に深刻化している不登校（30日以上）の児童生徒
- ・ 不登校の要因
「無気力、不安」約半数
- ◆ 不登校の児童生徒の 47.0%
「授業が分からない」
- ◆ 教師回答では背景要因として特別支援教育のニーズ、発達特性、障害があることが示唆

学校	児童生徒数 (人)	不登校児童 生徒数 (人)	不登校児童 生徒数の 割合	不登校児童 生徒数の前 年度比
小学校	6,100,280	130,370	2.1%	124.0%
中学校	3,220,963	216,112	6.7%	111.4%
高校	2,925,515	68,770	2.4%	113.5%

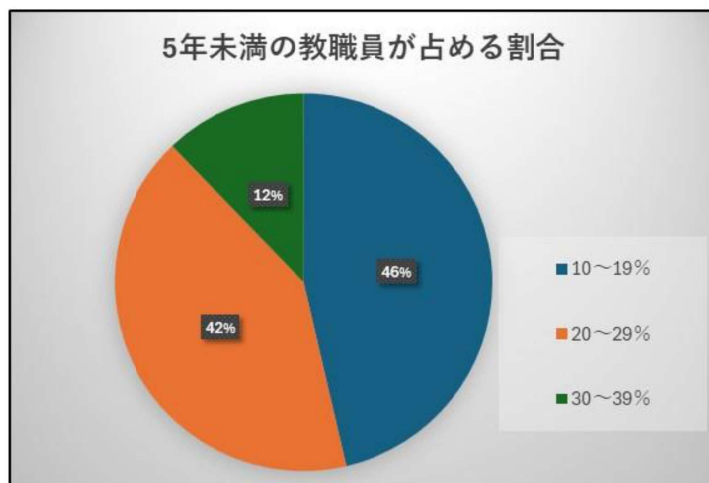
授業改善や学習支援の充実
研修の機会の充実・確保に努めることが不可欠

令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等
生徒指導上の諸課題に関する調査結果
文部科学省初等中等教育局児童生徒課

教師が育つ学校現場

・特別支援学校では、経験の浅い教員割合が高く、採用時の質の確保と専門性の向上が課題

・全国特別支援学校長会 基本問題検討委員会 R6都道府県評議員向けアンケート「特別支援学校における教職員の資質向上・育成と校長の役割について」再整理された5つの「教師に共通的に求められる資質」に沿って**経験の浅い教員（5年未満）の傾向**について調査を行った。



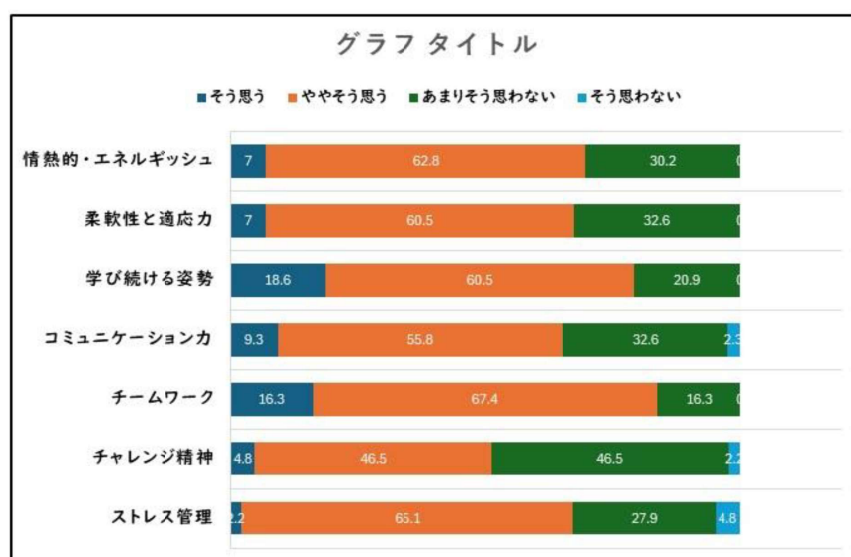
9

特別支援学校 経験の浅い教員の実情

「各教科の専門的知識」
「カリキュラムマネジメント」
は他に比べ低い傾向がある

「学び続ける姿勢がある」
「チームワーク行動がとれる」
➡ 約80% 高い評価

「チャレンジ精神がある」
➡ 46.5% 顕著に低い



出典：全国特別支援学校長会 基本問題検討委員会調査

チャレンジできる環境が整っていないのではないか

教師が育つ学校現場

時間

×

意欲

<研修等の方法の工夫>

現場で人から学ぶことと

自ら主体的効率的に学ぶこと

- ◆オンライン・オンデマンドの活用
(参考資料：国立特別支援教育総合研究所等の活用)
- ◆現場における外部人材の活用
- ◆特別支援コーディネーターの配置
- ◆指導教諭の配置

<心理的安全性の確保>

- ◆メンター制度の活用
- ◆スクールロイヤー制度の拡充
- ◆職場風土の醸成
(管理職のリーダーシップ)
- ◆教師の職の魅力 再認識

働き方

働きがい

11

お時間をいただき
ありがとうございました。

全国特別支援学校長会副会長
東京都立文京盲学校校長
安田 咲登子

特総研は、次の取組を通じて、障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献することを目指しています。

研究

先生方の「困った！」の解決のヒントになる実践事例や指導のポイントをもとめたリーフレットなどがご覧いただけます

- 研究成果をもとに、指導者用のガイドライン、Q&A集、実践事例集、指導のポイントをもとめたリーフレット等、現場に役立つコンテンツを作成。



最近の刊行物

研修

特別支援教育の基礎的な内容から専門的な内容まで、ニーズに合わせて学ぶことができます

- 都道府県等で指導的役割を果たす教職員を対象とした研修を実施
 - ・ 障害種別専門研修（2ヶ月間）
 - ・ テーマ別の研究協議会、セミナー（各1日）
- インターネットによる講義配信（NISE学びラボ）において、通常の学級における学びの困難さに応じた指導も含め、約170のコンテンツを配信

登録すれば無料でコンテンツを見放題！
- 免許法認定通信教育の実施



講義配信の視聴画面

情報普及

特別支援教育の最新の動向を得ることができます

- 「特別支援教育教材ポータルサイト」リニューアル 国内のICT教育の実践多数掲載
- 発達障害のある子どもの基本的な知識と指導・支援について「発達障害教育推進センターWEBサイト」で情報発信
- 教育における合理的配慮の実践事例検索ができる「インクルDB」 など

HPIは
こちらから！



Webサイトでは、子どもたちの可能性を引き出すためのヒントをたくさんご用意しています。ぜひ特総研をご活用ください。

13

インターネットによる講義配信 NISE 学びラボ ~特別支援教育eラーニング~

https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/online



登録者数：個人登録18,234件、団体登録1,085件（令和6年3月28日現在）

障害のある児童生徒等の教育に携わる教職員の資質向上を図る主体的な取組を支援するため、インターネットによる講義配信「NISE学びラボ」特別支援教育eラーニング事業を展開しています。

（研修プログラム一覧）

【コンテンツの特徴】

利用可能機器：パソコンやタブレット端末、スマートフォン 等
視聴時間：1コンテンツ 15分～30分程度
対象：教員、教育委員会、大学等教育関係者、保護者や福祉・医療従事者等
特別支援教育に関心のある者全て

※個人登録を行うことにより、どなたでも視聴できます。

講義コンテンツ分類（計174コンテンツ）

- ① 特別支援教育全般 52コンテンツ
- ② 障害種別の専門性 94コンテンツ
- ③ 通常の学級における学びの困難さに応じた指導 28コンテンツ

No.	研修プログラム
1	インクルーシブ教育システムについて学ぶ
2	特別支援教育コーディネーターになったら
3	特別支援学級（知的障害）の担任になったら
4	特別支援学級（自閉症・情緒障害）の担任になったら
5	特別支援学校の教員になったら
6	通級による指導の担当者になったら
7	小学校・中学校等の管理職になったら
8	全ての教職員を対象に：本人・保護者に寄り添った指導・支援のために
9	幼児期における特別支援教育
10	高等学校段階における特別支援教育
11	これから教員になる人たちのために

さらに！団体登録により研修プログラムが設定できます！

教育委員会等の機関が主催する研修等で、受講者のニーズに合わせて複数の講義コンテンツを組み合わせた研修プログラムが設定できます。修了者には視聴証明書を発行します。



143

特総研と放送大学の連携による免許法認定通信教育の開設

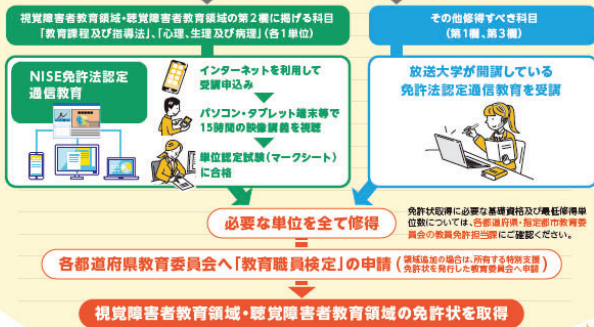


国立特別支援教育総合研究所・放送大学開設科目のご案内

**NISE (国立特別支援教育総合研究所) と放送大学の
免許法認定通信教育を利用して
視覚・聴覚障害者教育領域の
特別支援学校教諭免許状を
取得しませんか。**

視覚障害者教育領域又は聴覚障害者教育
領域の免許状を保有していない教員等
(教員として3年以上の勤務経験がある等
の条件を満たす必要がある)

特別支援学校教諭免許状取得の流れ(イメージ)



国立特別支援教育総合研究所(NISE)では、免許状取得率が低い視覚障害者教育領域及び聴覚障害者教育
領域について、教育職員免許法施行規則において第2欄に掲げる科目(各1単位)のインターネットによる免
許法認定通信教育を開講し、特別支援教育に携わる教員の一層、二重免許状取得率向上を支援しています。

放送大学では、放送大学の開設科目(第1欄～第3欄)のみで知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域の2領域の免許状が取得可能で
すが、あわせて国立特別支援教育総合研究所(NISE)で第2欄に掲げる科目の単位を修得すれば、視覚障害者教育領域・聴覚障害者教
育領域含め、4領域の免許状の取得も可能です。

独立行政法人
NISE
国立特別支援教育総合研究所
National Institute of Special Needs Education

開講予定等については免許法認定通信教育総合情報サイトをご確認ください。

加配所属 国立特別支援教育総合研究所
免許法認定通信教育オフィス
E-mail: v-tsushin@nise.go.jp
ホームページ: <http://forum.nise.go.jp/tsushin/>

放送大学

出願期間・方法等について、詳しくは本学ウェブサイト
または学生募集課 までにご確認ください。

★放送大学ウェブサイト www.ouj.ac.jp ★お問い合わせ 043-276-5111 (通話料別)
E-mail: tsushin@ouj.ac.jp

※開講科目は、大学側の開講計画と変更される場合があります。このパンフレットより開講計画が変更された場合は、本学ウェブサイトでご確認ください。

科目について



国立特別支援教育総合研究所の開講科目
国立特別支援教育総合研究所では以下の4科目を開講しています。

免許法令に定める 科目区分	国立特別支援教育総合 研究所における対応科目	中心となる 領域	単位
特別支援 教育領域に 関する科目	心理等に関する 科目 (令和6年度 前期)	視覚障害者の 心、生活及び倫理	1
	視覚障害者の 心、生活及び倫理	聴覚障害者	1
	教育課程等に 関する科目 (令和6年度 後期)	視覚障害者の 教育課程及び指導法	1
	聴覚障害者の 教育課程及び指導法	聴覚障害者	1

【免許対象者】
普通免許状を有し、特別支援学校教諭の免許状取得、
若しくは視覚障害者教育領域または聴覚障害者教育
領域の追加を目指す方。
(既に特別支援学校の教諭免許状を有し、新たに領域追加を目指す
場合には、第2欄の科目のみ必要)

【受講申込方法】
下記ウェブサイトより受講募集要項をご覧ください。
※資料は無料です。
免許法認定通信教育総合情報サイト
(<http://forum.nise.go.jp/tsushin/>)にてご案内します。

【受講方法】
パソコン・タブレット端末等約15時間の映像授業を
視聴し、随時進捗チェックテストを実施します。
スクーリング形式の授業は行いません。

【講習期間(令和6年度)】
前期:講習期間 令和6年5月7日(水)～8月17日(土)
単位認定試験 令和6年9月9日(日)
後期:講習期間 令和6年9月30日(月)～令和7年1月10日(金)
単位認定試験 令和7年2月2日(日)
※単位認定試験は、各都道府県に試験会場を設け、対面
形式で実施します。

特別支援学校の普通免許状を保有していない方は、
上記国立特別支援教育総合研究所の開講科目に
下記放送大学の第1欄・第3欄の開設科目を組み
合わせることで視覚・聴覚障害者教育領域の特別
支援学校教諭免許状が取得できます。



〈放送大学への入学〉
●4月入学の場合
出願期間:11月下旬～3月中旬
●10月入学の場合
出願期間:6月中旬～9月中旬



放送大学の開講科目

特別支援学校教諭一・二重免許状(知的障害者教育領域、肢体不自由者教育領域*)

テレビ・ラジオ科目については、
インターネットでも配信しています。

免許法令に定める科目区分	放送大学における対応科目*	中心となる 領域	含む領域	単位
第1欄 特別支援教育の基礎理論に関する科目	特別支援教育基礎論(24)	オンライン	特別支援教育全般にわたる基礎的な科目です。	2
第2欄**	心理等に関する科目*4	知的障害教育領域(20)	ラジオ	知的障害者
	教育課程等に関する科目*5	知的障害教育領域(20)	ラジオ	知的障害者
第3欄	心理等に関する科目*4	肢体不自由児の教育(20)	テレビ	肢体不自由者
	教育課程等に関する科目*5	肢体不自由児の教育(20)	テレビ	肢体不自由者
第3欄	心理等に関する科目*4	特別支援教育領域(19)	ラジオ	聴覚・LD等領域 聴覚障害者 知的障害者 肢体不自由者 両領域

*1 一重免許状の取得に利用できる科目については、都道府県教育委員会によって異なります。必ず事前に都道府県教育委員会にご確認ください。
*2 対応科目については、必ず放送大学から「普通免許状及び各種免許状」についての特集冊子をご確認ください。
*3 第2欄の必要単位数は、都道府県教育委員会によって異なります。放送大学の授業は1科目2単位です。必要単位数に応じて科目を選択してください。
*4 心理等に関する科目…心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心、生活、発達及び倫理に関する科目
*5 教育課程等に関する科目…心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目

単位認定試験は、
Webで受けられます。

●入学科・授業料(令和6年度)

区分	入学科	授業料	入学科の概算
全科目履修生	24,000円	1単位あたり 6,000円	学校等から20名以上の集団入学をした場合 または、公立学校共済、国家公務員共済組合、日 本私立学校振興・共済事業団加入教育用募集要 項より出願した場合は半額割引
選択履修生	9,000円		
科目履修生	7,000円		

北海道教育大学・大阪教育大学・福岡教育大学 共同教育課程による大学院博士後期課程について（令和7年4月開設）

資料 8

各大学の特色

北海道教育大学 日本最大・東日本最大規模の教員養成単科大学

- 5キャンパスによる連携体制
- へき地・小規模校教育の推進
- 個別最適な学び

大阪教育大学 西日本最大規模の教員養成単科大学

- 教員養成フラッグシップ大学
- 複数の私立大学との連合教職大学院の設置
- ダイバーシティ教育

福岡教育大学 九州地区最大規模の教員養成単科大学

- 九州教員研修支援ネットワーク事務局設置
- 特別支援教育
- 学校適応支援

教員養成における深い経験知

共通点

- ・教員養成の広域拠点的作用
- ・教職大学院による実践型教員養成の実施
- ・遠隔地や他組織との連携による教育研究等の先導

目指す姿

- ・教育現場の今日的課題の解決とそのための教員養成改革や教員研修改革
- ・学校教育学の修得を通じた教育養成学の体系的な構築

共同専攻の3つの特色

教育現場をフィールドとした「**臨床的研究**」による多様な教育課題の解決

3大学による研究指導体制「**共同ネットワークラボ**」活用

「**教員養成学の開発**」を通して実践的学問「**学校教育学**」修得

●単科の教員養成大学の中でも大規模である3大学が全国を縦断するネットワークを構築

全国を縦断するネットワークによって、全国的な教育課題に対応

共同学校教育学専攻（博士後期課程）



メタバースで接続

●個々では成し得ない「教員養成単科」「遠隔」「共同」だからこそ成し得る養成体制の実現

共同専攻の概要

共同専攻の名称	共同学校教育学専攻
課程	博士課程（後期3年のみ）
分野	臨床発達教育科学 臨床教育学
入学定員	＜北海道教育大学＞ 4名 ＜大阪教育大学＞ 4名 ＜福岡教育大学＞ 4名
標準修業年限	3年
学位	博士（教育学）

令和7年度
入学生15名

養成する人材像

- ①教員養成大学・学部において必要とされる臨床的な研究力と教員養成に対する学識をともに備えた**教員養成担当教員**
- ②教育現場での実務経験を学部や教職大学院での教員養成に活かすことのできる**実務家教員**
- ③教員の資質向上と学校組織マネジメントに貢献する**教員研修の専門家**となる能力を持った人材

期待する成果

全国的な教育課題に対応しうる知識とスキルを養成

- 教員養成系博士課程における臨床的研究の充実
- 『令和の日本型学校教育』の実現
- 学校教育学の修得の中で教員養成学の体系的な構築

共同設置

OECD ティーching・コンパス（教師の羅針盤）

簡単な概要(一部) のご紹介

Miho Taguma

Senior policy analyst, project manager of the OECD Future of Education and Skills 2040

Directorate for Education and Skills

17 July 2025

本日のティーching・コンパスに関するプレゼン内容

1. E2040参加国によるTC議論の背景
2. 簡単なTC全体像ー6つの主な概念整理
3. 本日の焦点-2つ
 - ◆ アンカー（錨）
 - ◆ 教師エージェンシー（個人・共同・集合）

本日のティーチング・コンパスに関するプレゼン内容

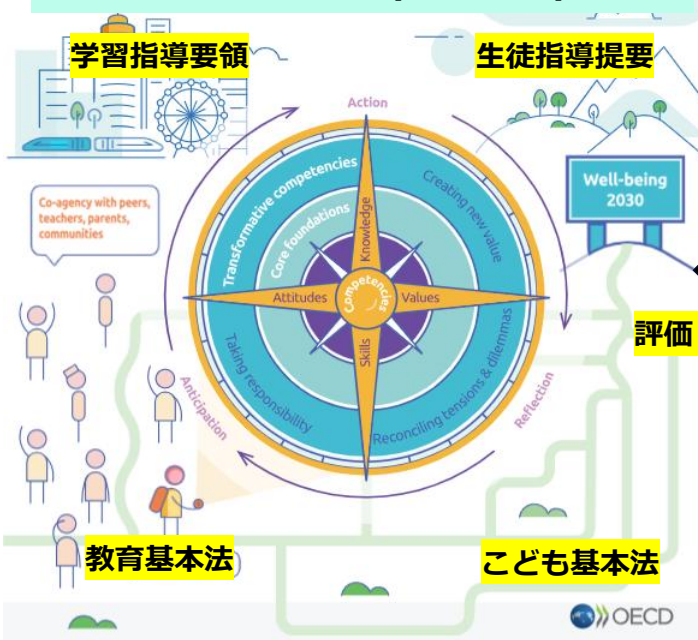
1. E2040参加国によるTC議論の背景
2. 簡単なTC全体像ー6つの主な概念整理
3. 本日の焦点- 2つ
 - ◆ アンカー（錨）
 - ◆ 教師エージェンシー（個人・共同・集合）

3

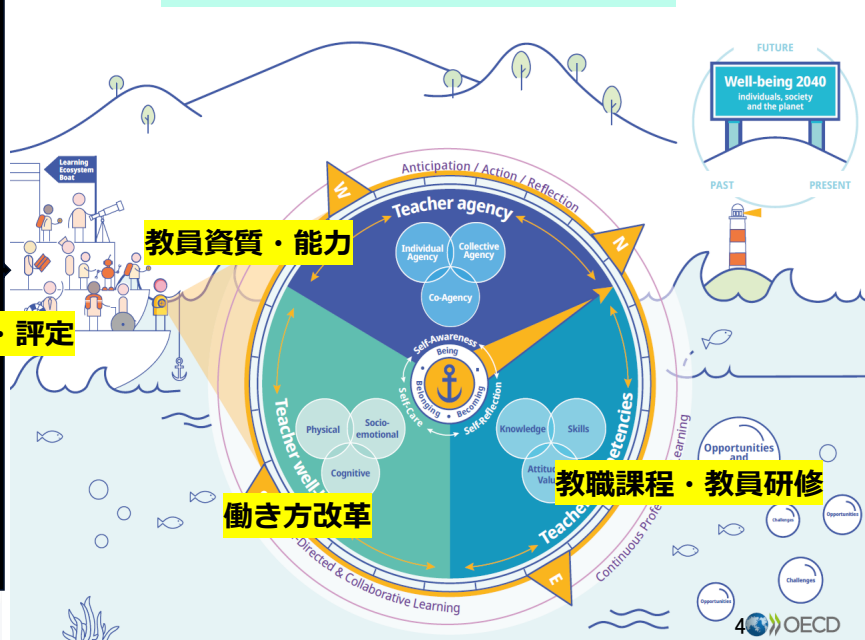
OECD諸国によるティーチングコンパス議論の背景：

- ・ カリキュラムを「理念」から「現実」にする未来の教師像
- ・ カリキュラム改定含め制度再設計ー部分最適から全体最適へ

ラーニング・コンパス (2015-19) 改定中



ティーチング・コンパス(2025)

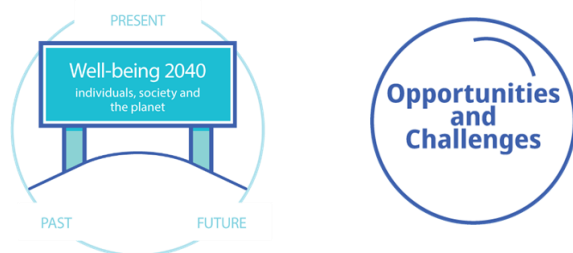
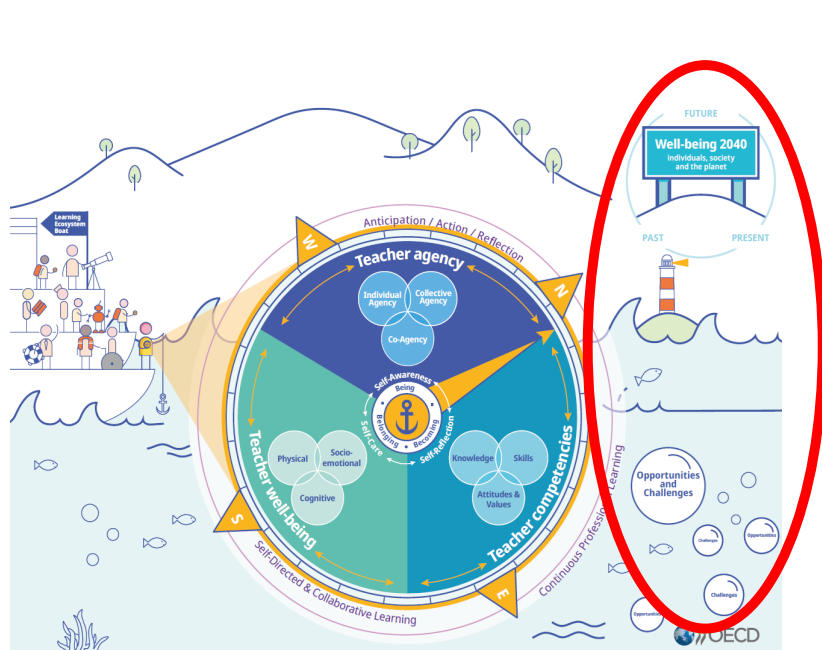


本日のティーチング・コンパスに関するプレゼン内容

1. E2040参加国によるTC議論の背景
2. 簡単なTC全体像ー6つの主な概念整理
3. 本日の焦点
 - ◆ アンカー（錨）
 - ◆ 複雑化するCo-agency

5

1 個人・社会・地球のウェルビーイングあふれる2040年に向けて 過去・現在・未来の捉え方、好機と課題のバランス



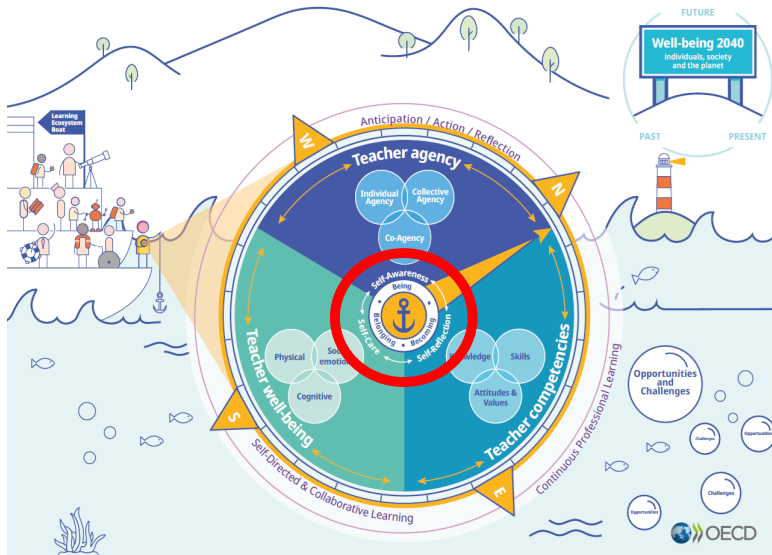
- **過去**から学び、**現在**に根差し（実態・実感）、**未来**に備える
- 二項対立・未結合・分断を超え、**システム思考**で

6



2. ぶれないコンパスのための<錨>

変化が激しい時代の羅針盤—自分軸を錨に



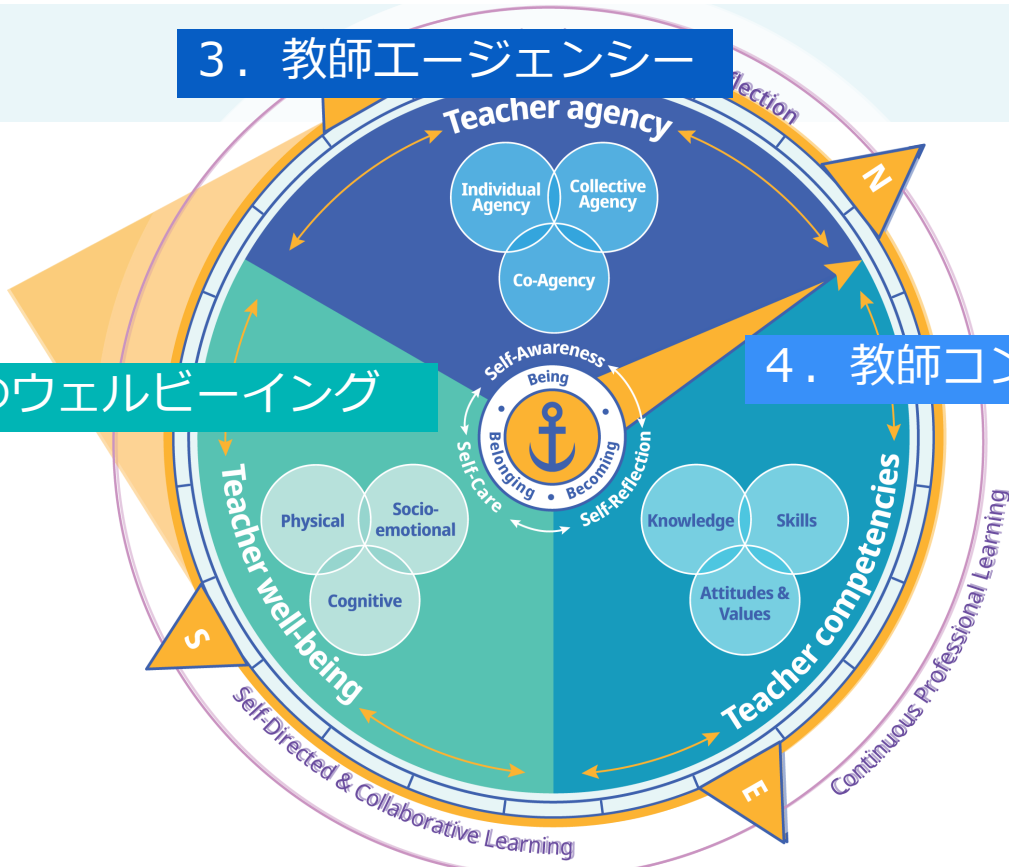
7



3. 教師エージェンシー

5. 教師のウェルビーイング

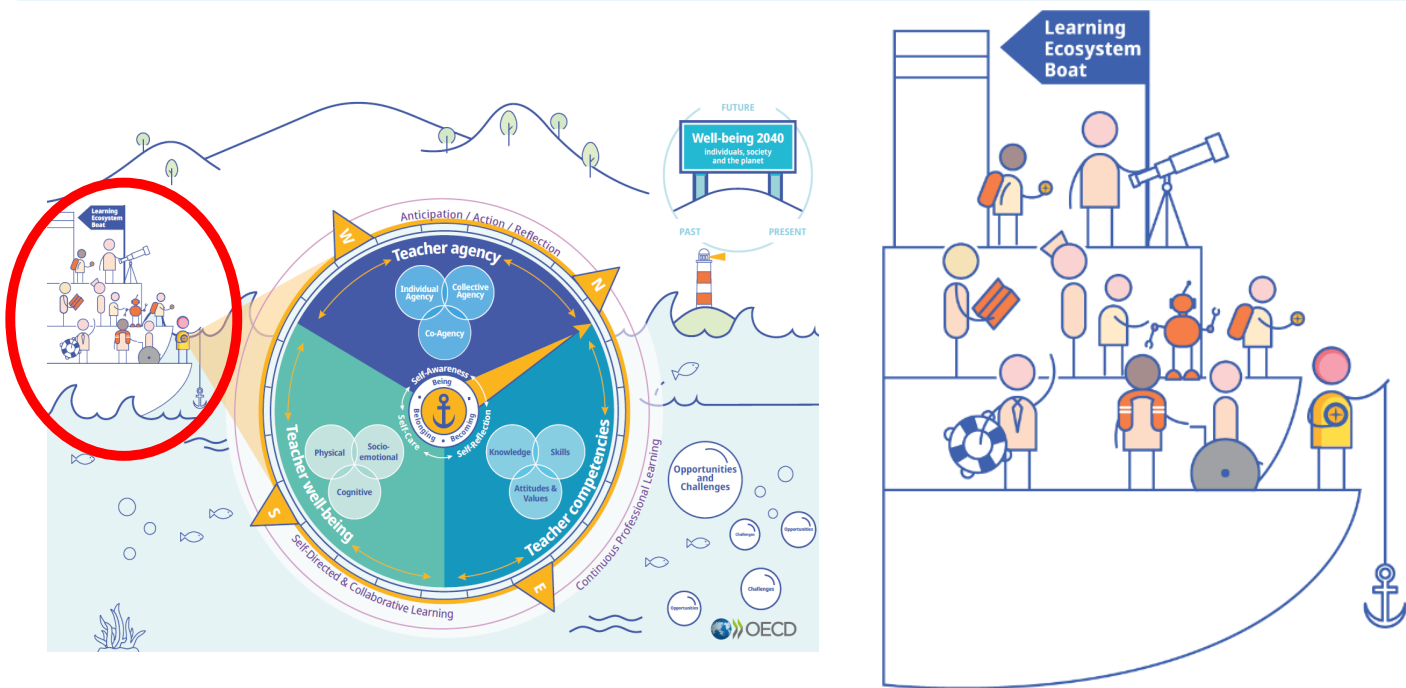
4. 教師コンピテンシー



8



6. 学びのエコシステム



9



本日のティーチング・コンパスに関するプレゼン内容

1. E2040参加国によるTC議論の背景
2. 簡単なTC全体像ー6つの主な概念整理
3. 本日の焦点-2つ
 - ◆ アンカー（錨）
 - ◆ 教師エージェンシー（個人・共同・集合）

10



11



Being – authentic self 教師としてある姿・真正なる自己（自己に対する深い理解）

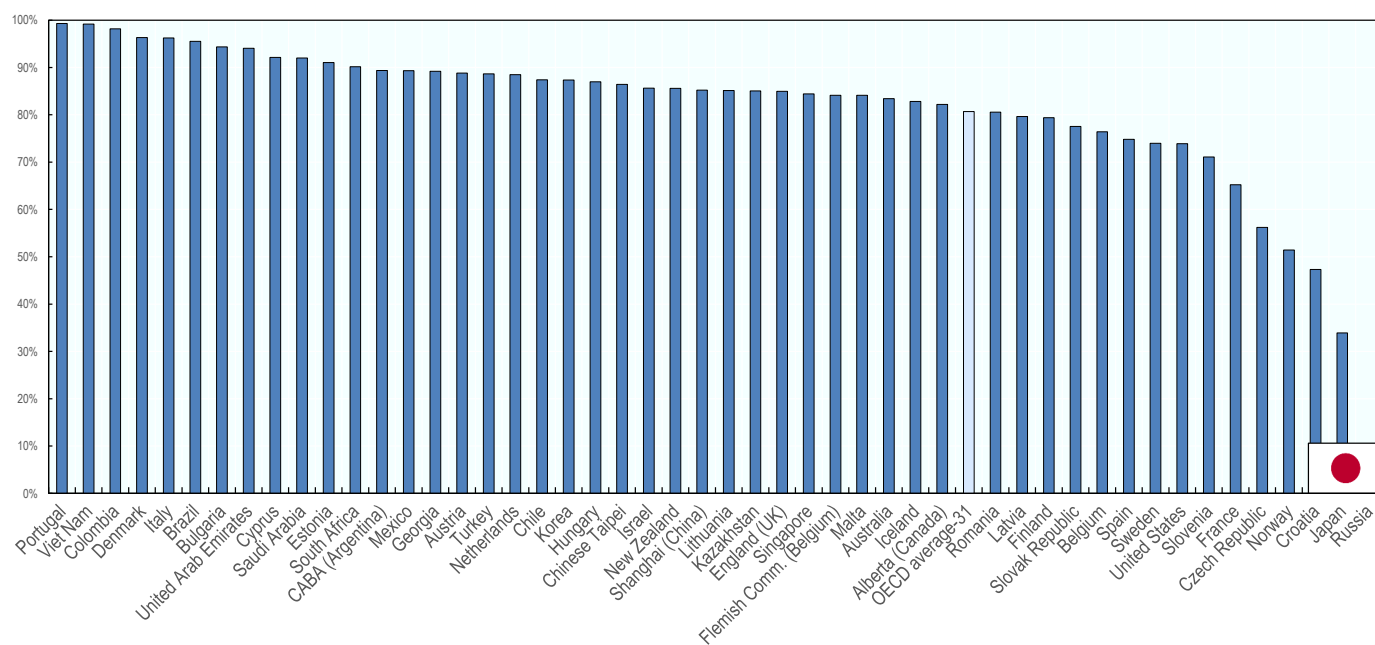
- **Professional identify, dignity, integrity**
専門職としてのアイデンティティ、尊厳、誠実さ）→教師の矜持
- **Sense of purpose**
目的意識
- **Sense-making/ Meaning-making**
“腑に落ちる”/意味付ける （自分自身の意味付け、生徒の鏡に）



12



Teachers' self-efficacy for helping students to value learning 生徒が学びに価値を見出すサポートすることに対する教師の自己効力感



Source: OECD, TALIS 2018 Database, Table I.2.20. StatLink: <https://doi.org/10.1787/888933933045>.

13



Being – authentic self 教師としてある姿・真正なる自己（自己に対する深い理解）

- **Professional identity, dignity, integrity**
専門職としてのアイデンティティ、尊厳、誠実さ）→教師の矜持
- **Sense of purpose**
目的意識—なぜ、学ぶ・教えるのか？誰のための教育？
- **Sense-making/ Meaning-making**
“腑に落ちる”/意味付ける （自分自身の意味付け、生徒の鏡に）

Belonging – relationships in classroom & school community

教師の居場所（所属感）

- **Psychological safety**
心理的安心・安全性
- **Caring and empowering relationships**
思いやりと教師の力を引き出す関係性
- **Community connection and school ethos**
地域とのつながりと学校の教育理念（校風）



Becoming – professional growth and transformation

教師のアイデンティティ形成・専門性、深化・変化し続ける

- **Continuous professional learning**
継続的な専門職としての学び
- **Self-directed & collaborative learning**
主体的・協働的な学び
- **Anticipate-Action-Reflection competency development cycle**
予測・行動・振り返りサイクル



When the Compass doesn't Work: Risks of Losing the Anchor

コンパスが機能しないとき：アンカー（錨）を失うリスク

- **Spinning Needle** 針が回り続ける

集中を欠く、本質を見失う、目標が曖昧になる・形骸化する

- **Drifting Off the Intended Course** 意図した航路から逸れる

教師エンゲージメントの喪失、視野の狭まり（全人格教育vs測定可能な側面偏重）、説明責任が生む矛盾（アカウンタビリティ・パラドックス）

- **Magnetic Distortion** 磁気の歪み

無意識の偏見、外的な圧力、認知のゆがみ



- **Self-awareness** 自己認識

- **Self-reflection** 自己内省

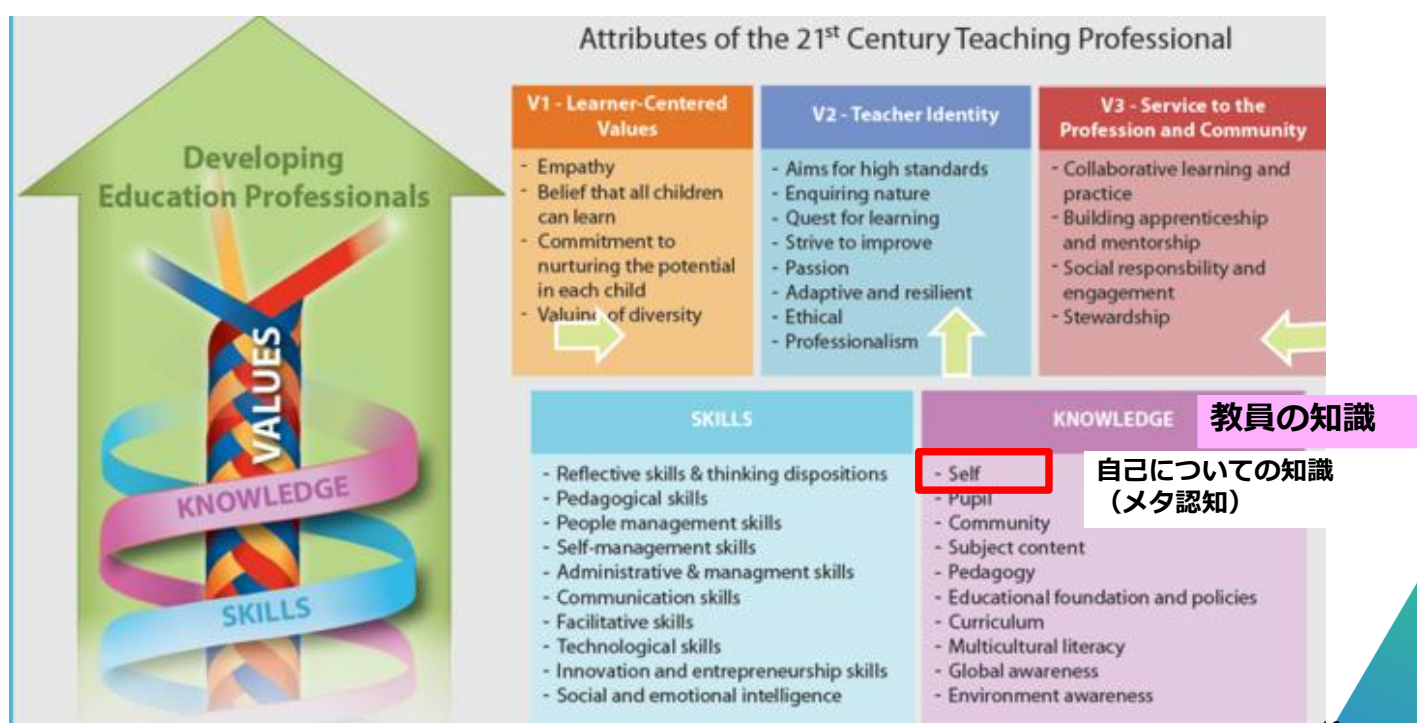
- **Self-care** セルフケア

15



シンガポールの例－21世紀教師像（TGM：教師成長モデル）

教師の資質・能力（知識・スキル・価値観）各領域について深堀り



16



本日のティーチング・コンパスに関するプレゼン内容

1. E2040参加国によるTC議論の背景
2. 簡単なTC全体像ー6つの主な概念整理
3. **本日の焦点-2つ**
 - ◆ アンカー（錨）
 - ◆ 教師エージェンシー（個人・共同・集合）

17



本日のティーチング・コンパスに関するプレゼン内容

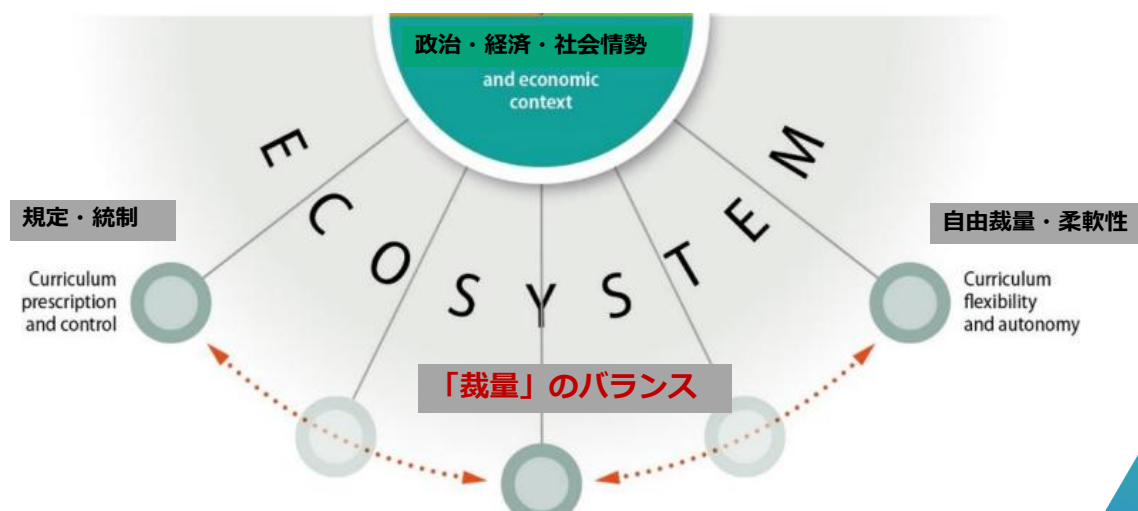
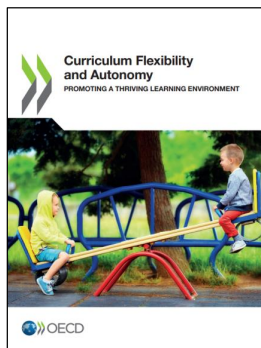
1. E2040参加国によるTC議論の背景
2. 簡単なTC全体像ー6つの主な概念整理
3. **本日の焦点-2つ**
 - ◆ アンカー（錨）
 - ◆ 教師エージェンシー（**個人**・共同・集合）

18

教師エージェンシー(個人)

例「カリキュラムの自由裁量・柔軟性」を適切に活用できる教師のエージェンシー

(アジャイルに、その場その場の文脈で適切な判断が求められる) **裁量のバランス→振り子の歴史**



Source: OECD (2024), *Curriculum Flexibility and Autonomy: Promoting a Thriving Learning Environment*, OECD Publishing, Paris

19



教師エージェンシー発揮する「自由裁量・柔軟性の範囲・程度・あり方」

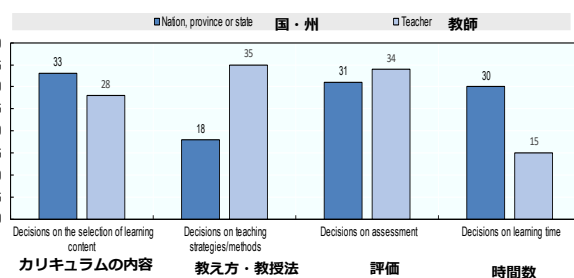
範囲

- カリキュラム (学校レベル) 目標
- 内容
- 教え方
- 評価
- 時間数



程度

- 低
- 中
- 高



性質・あり方

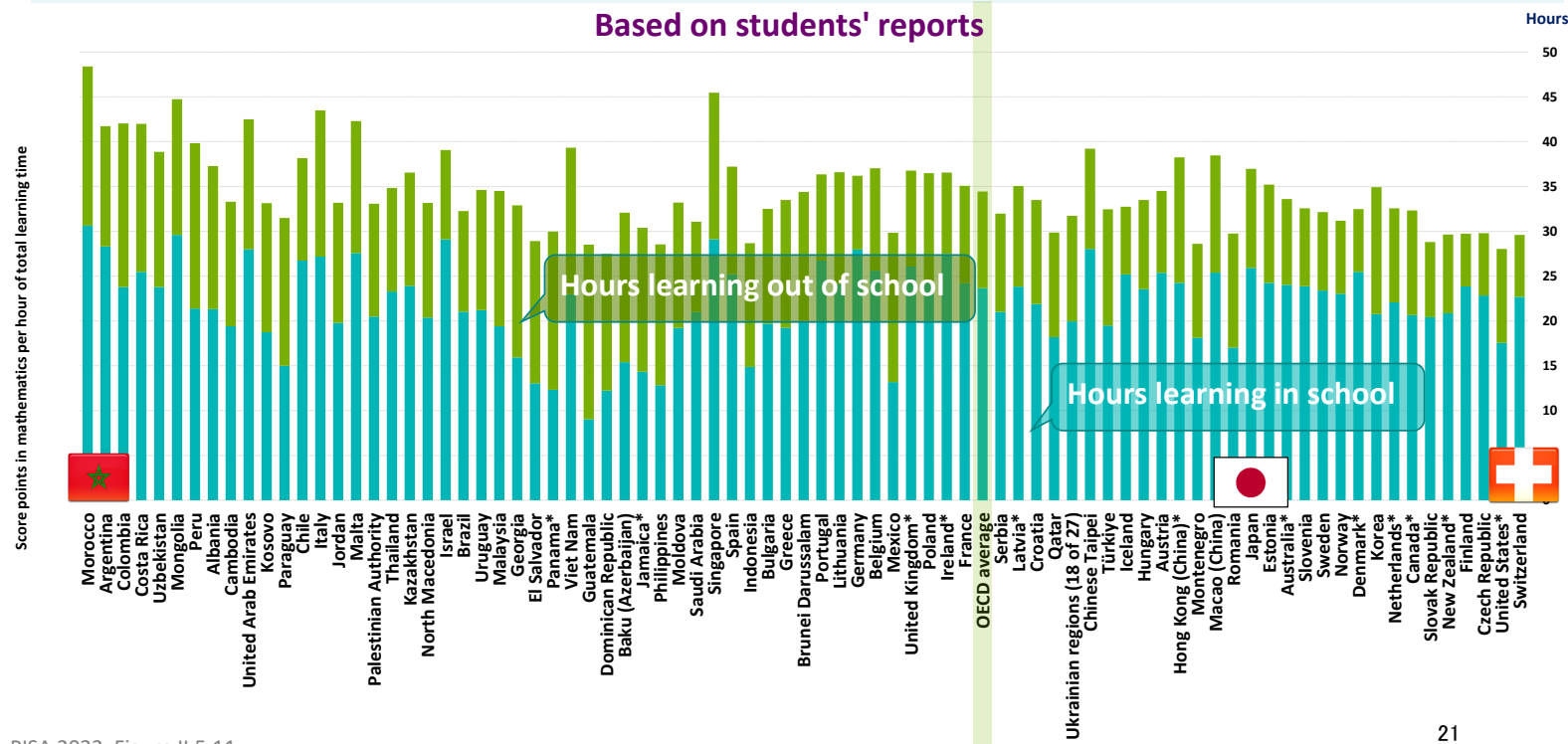
- 選択する
- 適応・調整する
- 新たに加える
- 削除・削減する
- デザインする・共同デザインする

Source: OECD (2024), *Curriculum Flexibility and Autonomy: Promoting a Thriving Learning Environment*, OECD Publishing, Paris

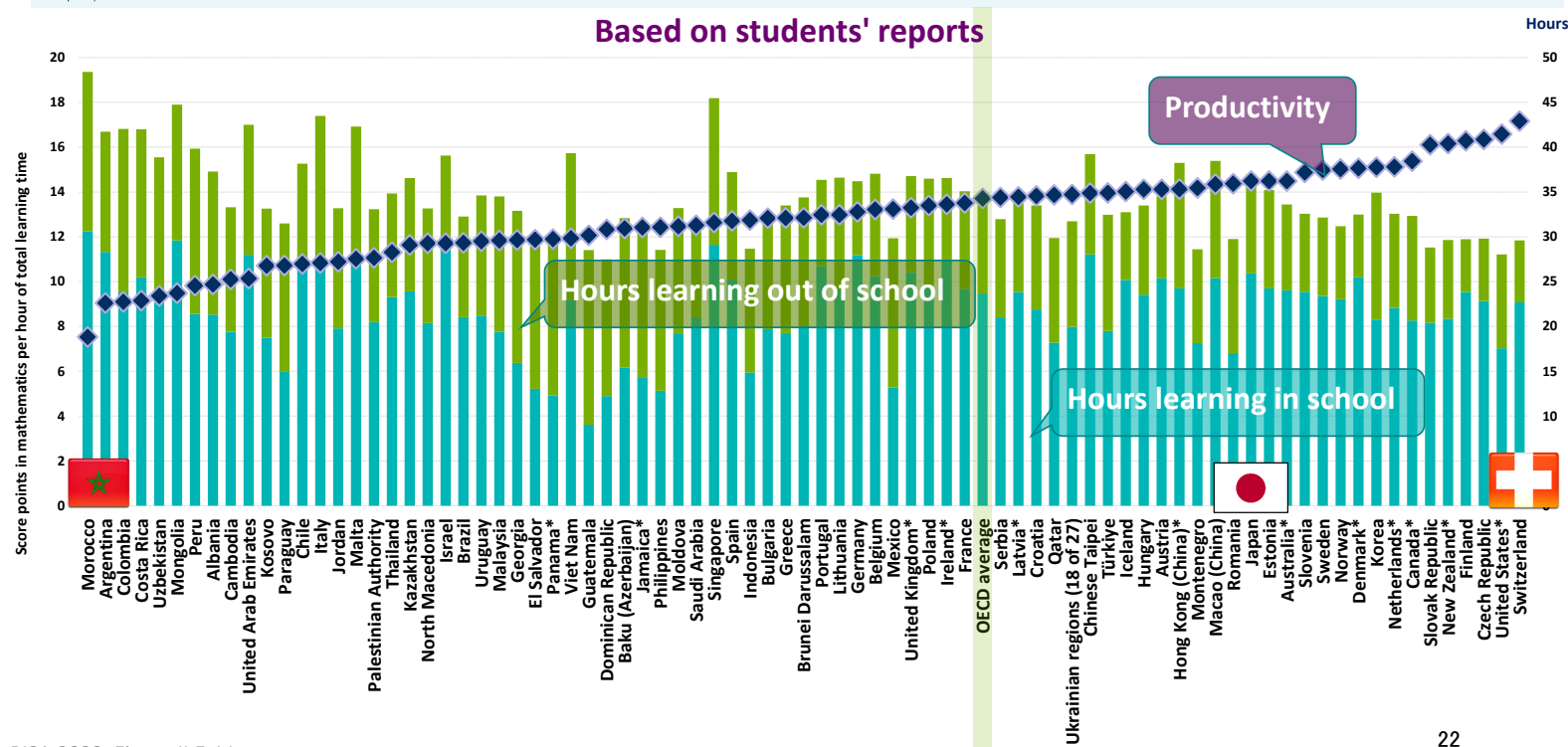
20

時間数について – 教師エージェンシー（マインドセットの転換を） Learning time ≠ learning outcomes 時間数 ≠ 学力

Based on students' reports



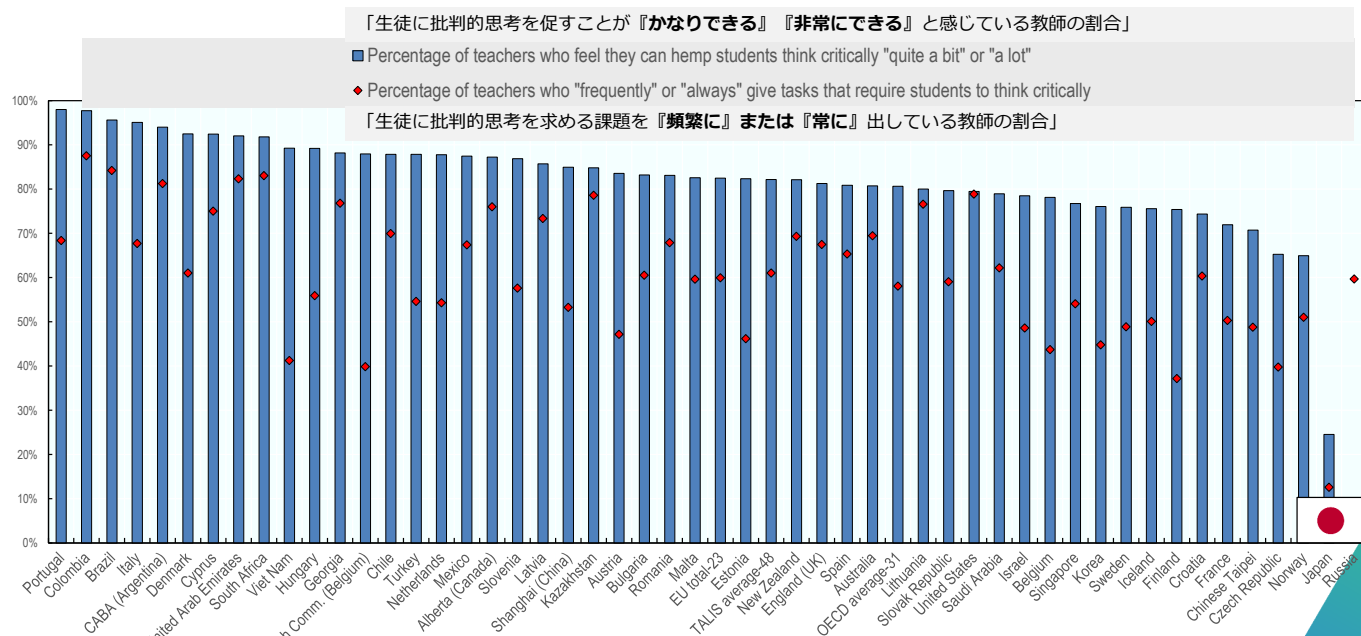
Based on students' reports





教え方について—指導要領と連動した教員養成課程、教師のニーズに基づく研修 → 教師エージェンシー（自己効用感等）向上

例) Critical thinking 批判的思考（鵜呑みにしない思考力）を教えるにあたって・・・



Source: OECD, TALIS 2018 Database, Tables I.2.20 & I.2.1, StatLink: <https://doi.org/10.1787/888933933045>.

23



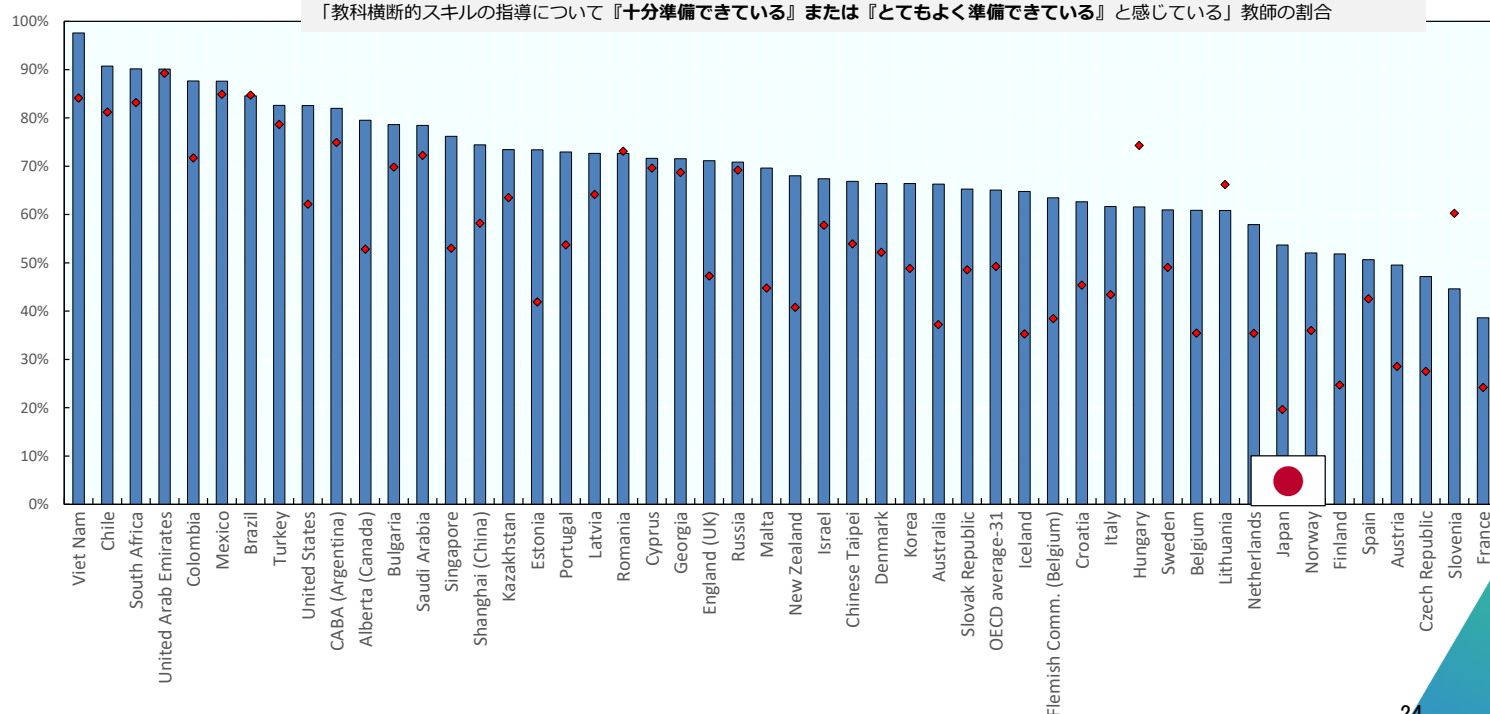
例) Cross-curricular skills 生徒の教科横断的思考やスキルを教員が教えるにあたって・・・

「教科横断的スキルの指導が、教員養成または正式な研修の一部として含まれていた」と回答した教師の割合

■ Percentage of teachers from whom teaching cross-curricular skills was included in their formal education or training

◆ Percentage of teachers who felt "well prepared" or "very well prepared" for the teaching of cross-curricular skills

「教科横断的スキルの指導について『十分準備できている』または『とてもよく準備できている』と感じている教師の割合



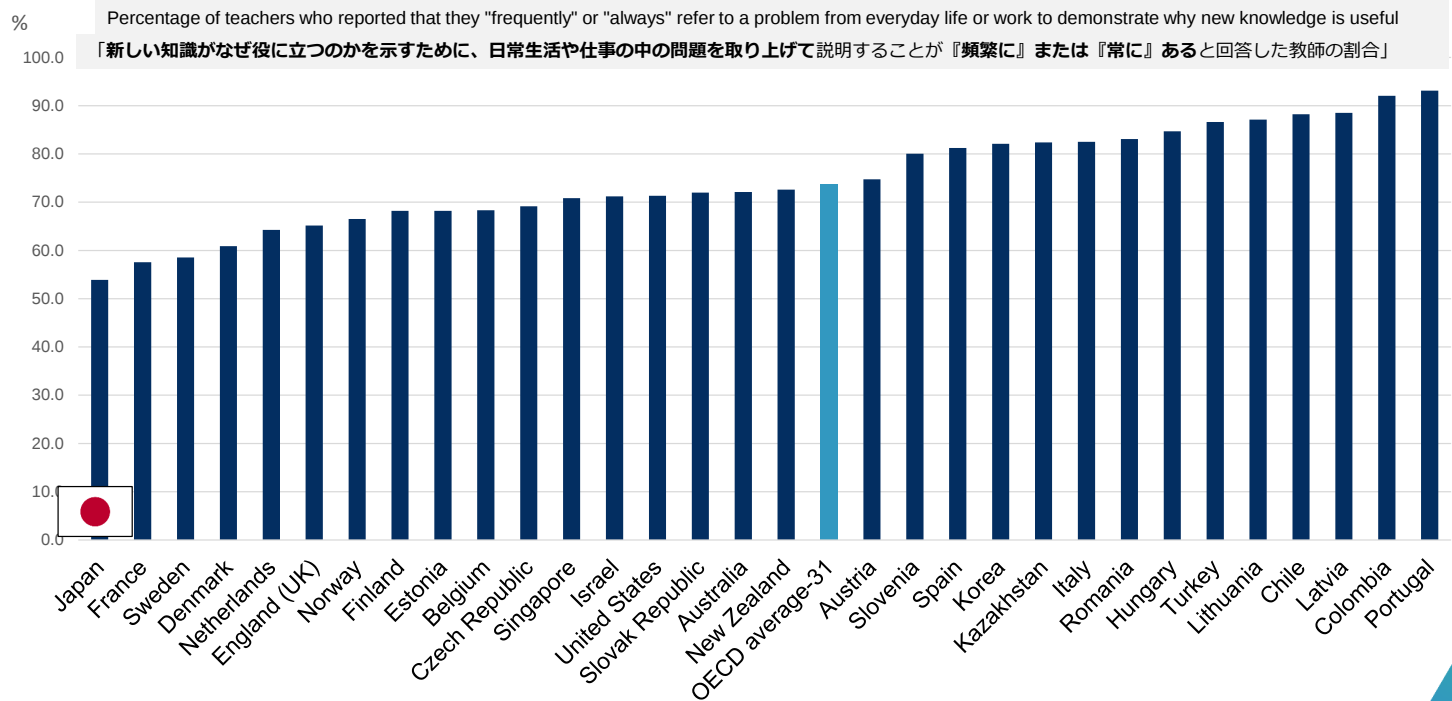
24



例) Teacher's use of everyday problems in teaching

教科と日常生活の往還（「理論と実践の往還」にも応用）

日本OECD共同研究・教師を目指す学生部会より示唆→「教育実習」の在り方



Source: OECD (2020), TALIS 2018 Results (Volume II): Teachers and School Leaders as Valued Professionals, TALIS, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/19cf08df-en>.

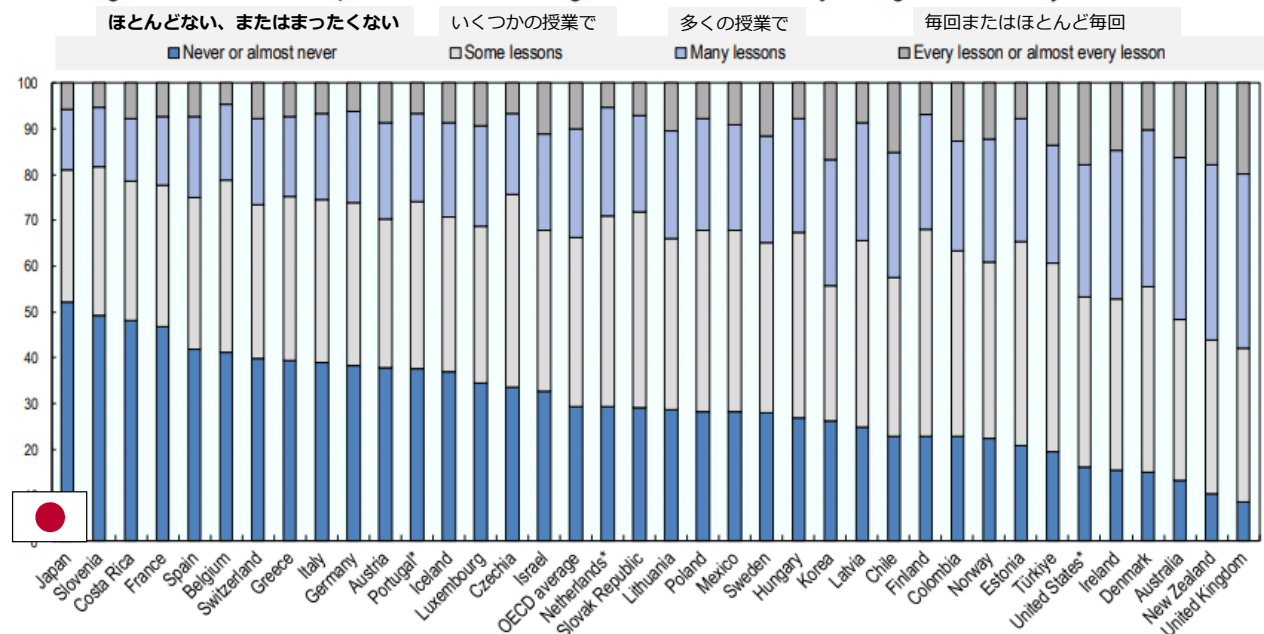
25



評価についてー

「この教科で教師が私の強みについてフィードバックをくれる」と回答した生徒の割合

Percentage of students who reported that "teachers give me feedback on my strengths in this subject"



Note: *Data did not meet the PISA technical standards but were accepted as largely comparable.

Source: (OECD, 2019^[38]), PISA 2018 Results (Volume III): What School Life Means for Students' Lives, <https://doi.org/10.1787/acd78851-en>.

26

本日のティーチング・コンパスに関するプレゼン内容

1. E2040参加国によるTC議論の背景
2. 簡単なTC全体像ー6つの主な概念整理
3. 本日の焦点-2つ
 - ◆ アンカー（錨）
 - ◆ 教師エージェンシー（個人・共同・集合）

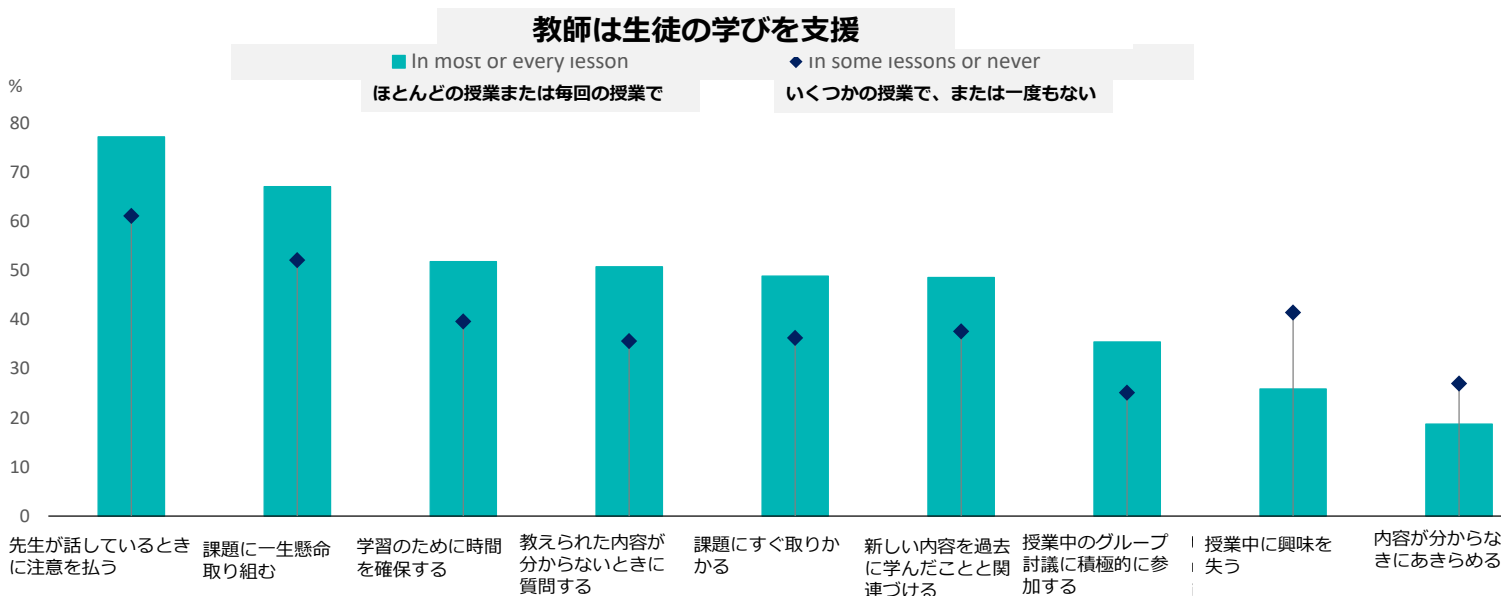
27

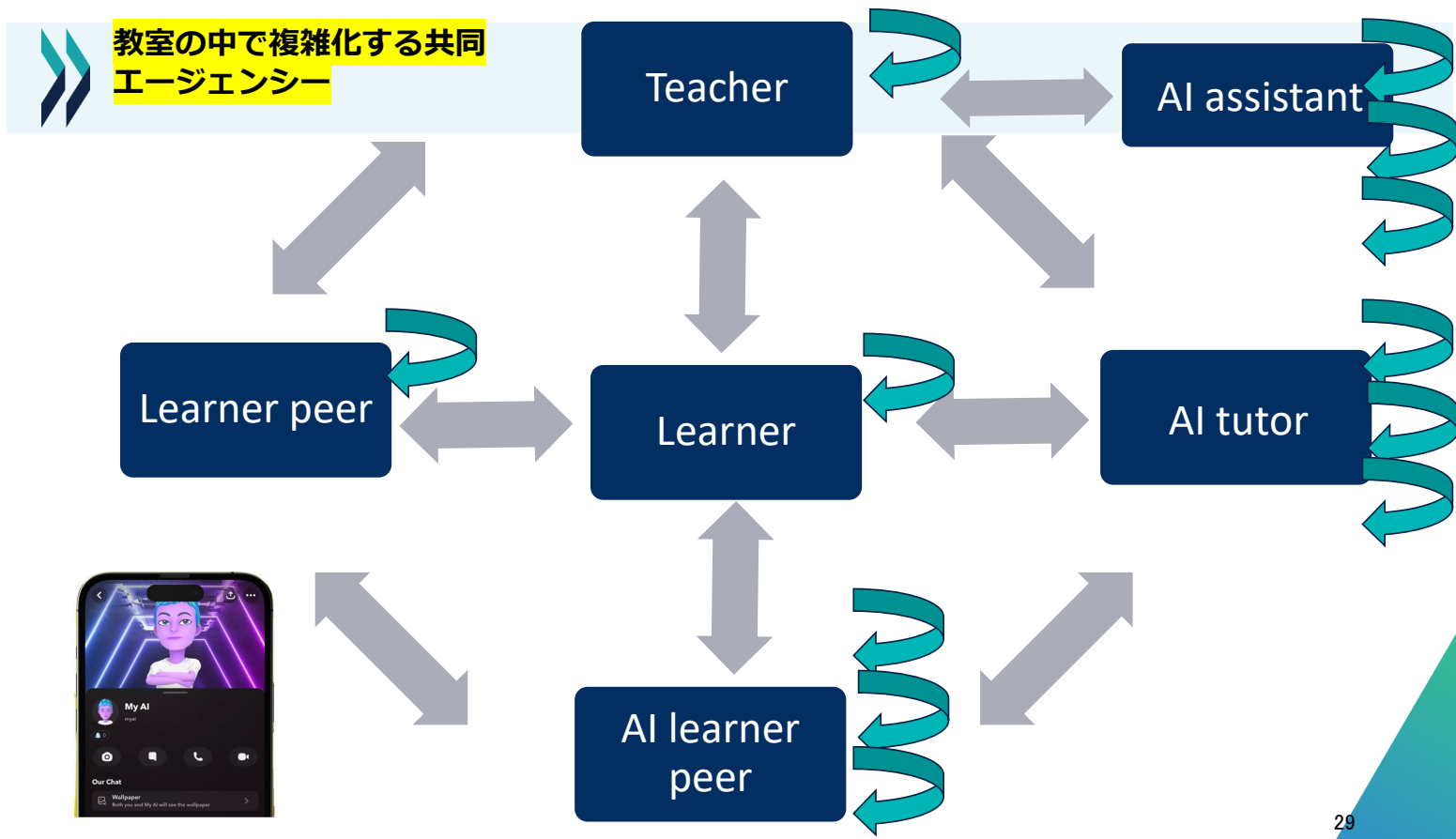
生徒との共同エージェンシー

When teachers help students, the students are more likely to pay attention, put more effort in and ask questions
 教師が生徒の学習を支援すると、生徒の学びに向かう態度が向上
 （例、先生の話に注意を払う、より努力する、わからない時に質問をする等）

Percentage of students reporting they do the following at least more than half of the time during their school year when their teachers help them with their learning; OECD average

「教師が学習を支援してくれるときに、年間を通じて少なくとも半分以上の時間で以下のことを実行している」と回答した生徒の割合（OECD平均）





29

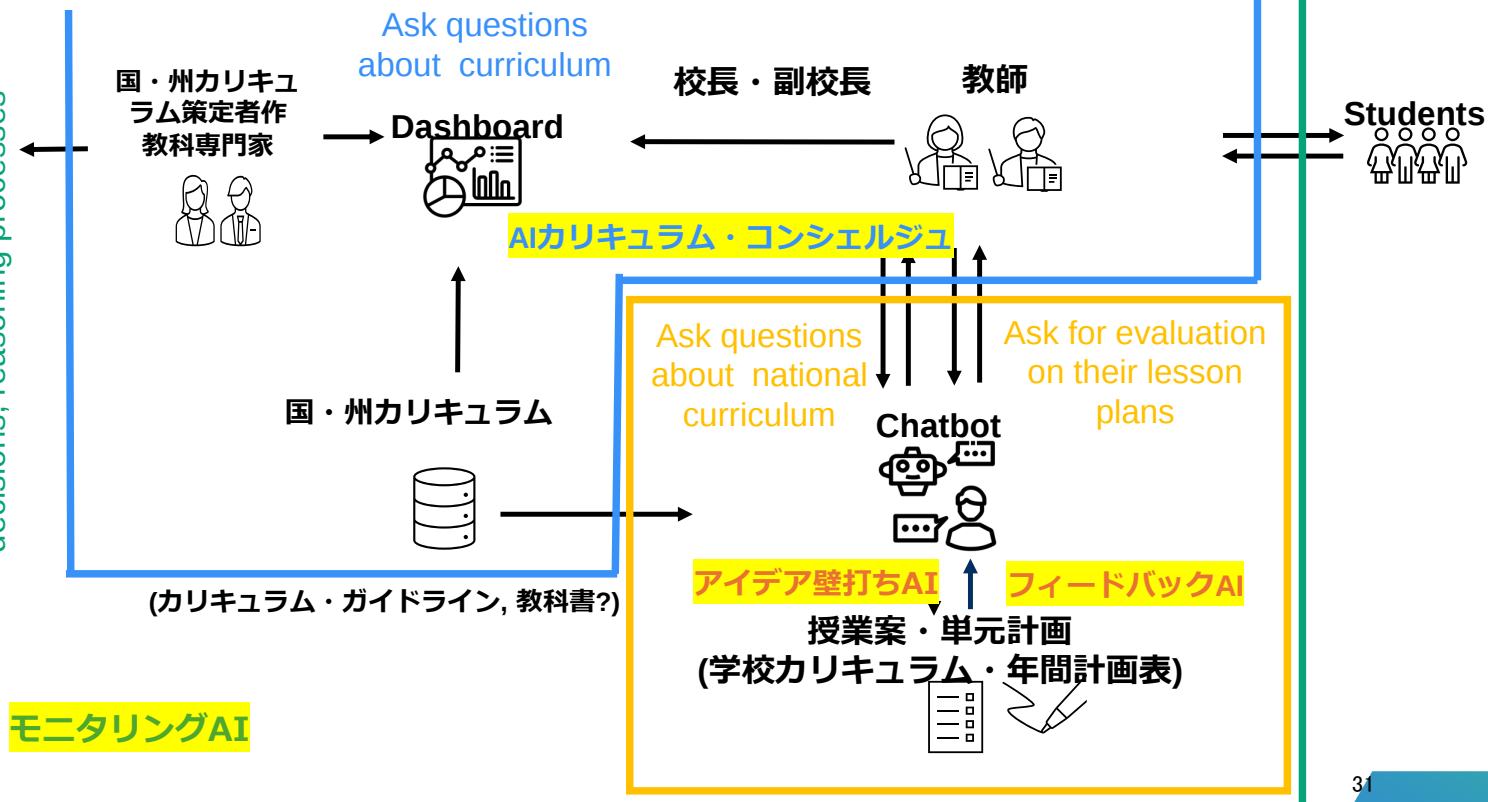
E2040 : 人間ならではの教師エージェンシーとAIエージェントの共創の在り方 (二項対立を越え、補完的な役割分担などAI専門家と議論中)

観点	人間の教師 (Human Intelligence)	AIエージェント (Artificial Intelligence)
専門性と倫理	内省的・価値に根ざし、倫理的責任を持つ	タスク志向・自己認識と道徳的判断を持たない
生徒との関係性	本物の対話、感情的つながり、メンタリング	構造化された支援、定型的なフィードバック
知識の扱い方	ゆっくり・深く考える。 身体知・経験に基づく	高速・一貫性あり。 膨大な知識に即時アクセス
創造性と共感	直感・ひらめき・本物の共感	パターン生成・模倣的共感
共創のあり方 人間×AIの補完関係	人間性が求められるタスクに集中し、AIは定型タスクを担当	
社会的文脈	AIは文化的・認知的技術 教育は「AIと共に生きる力」の育成へ	

30

教師自身が教師のためのAIツールをデザインー新しい研修のカタチ
(カリキュラム・サポートツール国際共同開発パイロット実施中)

Ask questions about teachers' questions, decisions, reasoning processes



31

本日のティーチング・コンパスに関するプレゼン内容

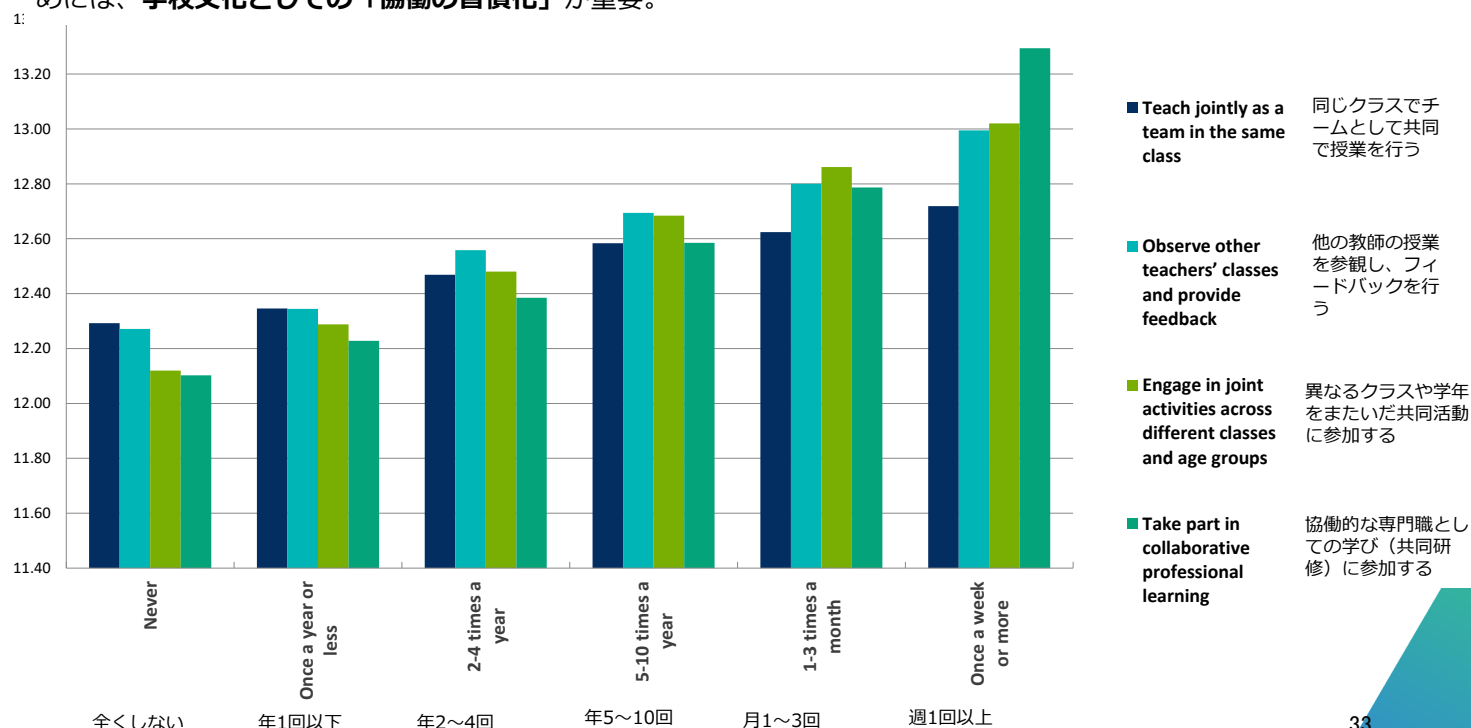
1. E2040参加国によるTC議論の背景
2. 簡単なTC全体像ー6つの主な概念整理
3. 本日の焦点-2つ
 - ◆ アンカー (錨)
 - ◆ 教師エージェンシー (個人・共同・集合)

32

教師の集団エージェンシー

一週1回以上協働している教師は、最も高い自己効力感を示している 示唆→ 教師のエージェンシー（主体性）や専門性の向上には、教師も、個別最適な学びだけでなく、協働を通じた相互学習が不可欠。集団的エージェンシーを高めるためには、学校文化としての「協働の習慣化」が重要。

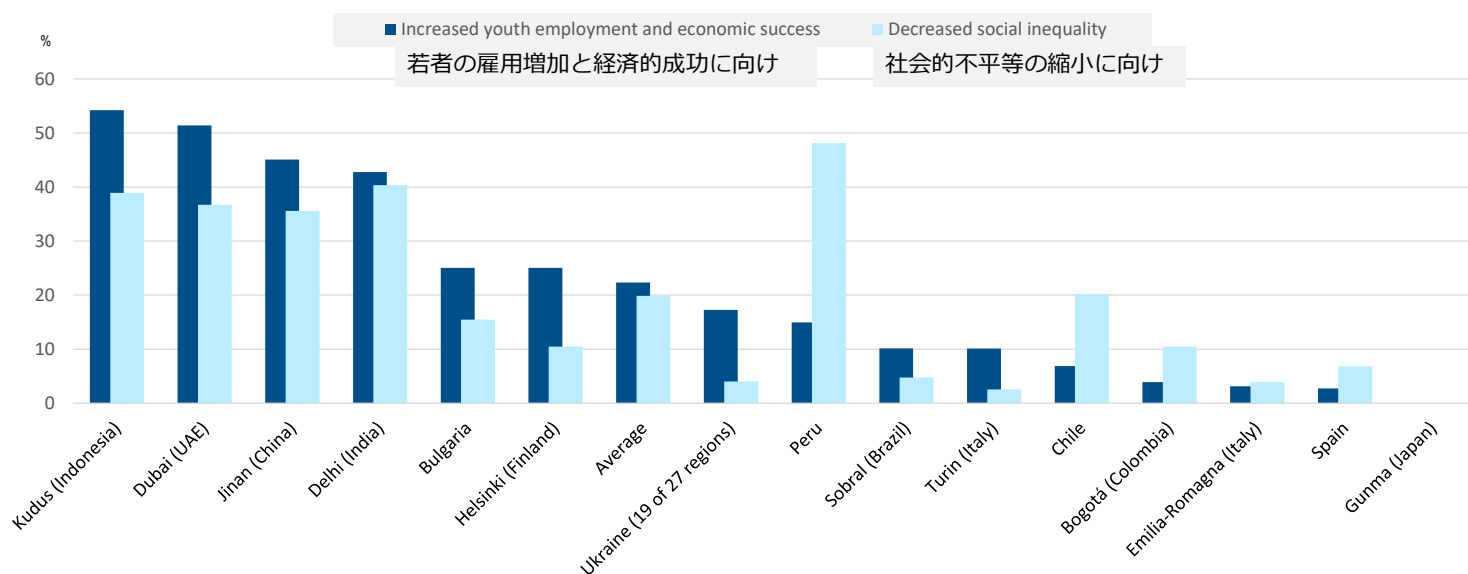
教師の自己効力感レベル (Teacher self-efficacy)



33

OECD社会的・情動的スキルプロジェクト

社会的・情動的スキルを重要と「共通の意識 (shared mindset)」を持つ学校に通う生徒は、多くの参加地域で、半数未満である



Percentage of 15-year-old students in schools where all teachers and principal agree social and emotional skills impact outcomes
すべての教師および校長が「社会的・情動的スキルが成果に影響を与える」と認識している学校に通う15歳の生徒の割合

34

Thank you